

農業情報総合研究所／いちじくレポート

「愛知県知多半島のサマーレッド」／村瀬義明さん（東海市）、杉山久さん（知多市）

1. 知多半島のいちじくの生産状況

2023年10月22日、愛知県知多半島のいちじくの農家を訪問しました。愛知県はいちじくの生産量が全国2位です（農水省の令和2年統計によると）。愛知県の生産量の3割を知多半島が占めます。知多半島では、主にサマーレッドといちじくの代表品種である柘井ドーフィンを生産されています。サマーレッドは愛知県で生産が増えています。柘井ドーフィンを改良した品種です。さっぱりとした甘さが特徴です。柘井ドーフィンより実が少し大きく、収量を増やすことができます。雨やスリップス（アザミウマ）にも少し強いとされています。いちじくの実が雨に濡れると、水膨れや裂果、腐敗などが起こることがあります。



2. 東海市のいちじく農家、村瀬義明さん

まずは、東海市のいちじく農家、村瀬義明さんの農園を訪れました。主枝の一文字仕立を行い、支柱に沿って枝を誘引しています。雨除けのための屋根付きが32アール、加温ハウスが68アールです。屋根付きでサマーレッド、ハウスで柘井ドーフィンを生産しています。サマーレッドは加温に向かないためです。サマーレッドは市場に直接出荷しています。販路は愛知県内と東京圏です。最盛期には、午前1時からパート4人と収穫です。午前5時から村瀬さんのお父さん、お母さんも収穫を行います。



村瀬さんのいちじくは東海市のスイーツ店「ラ パレット」や近隣の大府市にあるJA直売所のスイーツ工房「げんきの郷 すくすくヶ丘」にも出荷されています。いちじくの旬の時期には、いちじくパフェやいちじくタルトをいただくことができます。

3. 知多市のいちじく農家、杉山久さん

ついで、知多市のいちじく農家、杉山久さんの農園を訪れました。いちじくを30年ほど生産されています。訪問した農地は元々ふきを生産していました。知多半島はふきの全国最大の産地でもあります。杉山さんが農地を借りる前に、いちじくを生産に転換したそうです。このため、樹齢40年のいちじくも生えています。いちじくの樹齢はおよそ30年とされていますので、杉山さんはいかに大切にいちじくを育てているかがわかります。こちらでも、主枝の一文字仕立を行い、支柱に沿って枝



を誘引しています。いちじくの根を大切にしています。畝にわら、山砂をかけています。堆肥も入れて、いちじくの細根を増やす工夫をされています。杉山さんの「いちじくの生産は面白い。怠けるためにいろいろ工夫する」という言葉が印象的でした。こちらの農園は3か所に分かれています。近々、もう1か所増やす予定ですので、合計100アールほどになります。雨除けの屋根付きでサマーレッド、加温ハウスで柵井ドーフィンを生産され、JAに出荷されています。

杉山さんは野菜嫌いですが、いちじくを入れればサラダを食べることができます。この夏、東京の市場を訪問しました。そこで、いちじくサラダ、いちじくフルーツサンドなどの東京圏の需要があることを実感しました。このような需要が価格の安定につながっています。愛知県内でもいちじくサラダ、いちじくフルーツサンドなどが広がっていくことをいくことを希望されていました。

